

北名古屋市横断歩道橋長寿命化修繕計画



あおぞら横断歩道橋

令和7年12月（改定）

目 次

1. 長寿命化修繕計画の目的	1
(1) 背景.....	1
(2) 目的.....	1
(3) 方針.....	1
2. 長寿命化計画の対象施設（対象施設の概況）	2
(1) 計画対象の施設数	2
(2) 横断歩道橋の年齢	2
3. 健全性の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針	3
(1) 健全性の把握に関する基本の方針	3
(2) 日常的な維持管理に関する基本事項	4
(3) 近接目視による定期点検結果	4
4. 対象施設の長寿命化及び修繕・架替えに関する基本方針及び目標	5
(1) 老朽化対策における基本方針	5
(2) 横断歩道橋の集約化・撤去に関する基本方針及び目標	5
(3) 新技術の活用方針及び目標（コスト縮減効果）	6
5. 施設毎の対策内容と実施時期及び対策費用（個別施設計画）	6

1. 長寿命化修繕計画の目的

(1) 背景

北名古屋市（以下「本市」という。）は、平成18年3月に師勝町と西春町が合併して人口78,737人の都市として誕生し、横断歩道橋や橋梁など様々な道路施設の整備を進めてきました。

これらの公共施設等は、主に昭和40年代から昭和50年代にかけて整備してきたため、今後、老朽化が一斉に進行することが懸念されます。

一方、今後の少子高齢化の進行や人口減少社会を迎える状況の中、本市でも生産年齢人口の減少や高齢者等への福祉サービスのニーズ拡大、老朽化した公共施設等の更新が必要となることで、本市の財政を圧迫することも懸念されます。

更に、少子高齢化の進行等に伴い、公共施設等に対する市民ニーズも変化しつつあると考えられ、これらへの対応も求められます。

このような本市を取り巻く環境を踏まえると、社会情勢や市民ニーズ及び財政状況の変化に合わせ、公共施設等の維持管理、更新にかかる費用の縮減や財政負担の平準化等について検討を進める必要があります。

(2) 目的

上記の背景のもと、本市では所有する公共施設等の状況を把握し、限られた財源で適切な維持保全を行うことを目的とした「北名古屋市公共施設等総合管理計画（平成28年3月/令和4年3月改訂）」を策定するなど、これまで道路施設の適切な維持管理や財政負担の平準化に向けた取組を進めています。

本計画は短期的な観点から、維持管理、更新にかかる費用の縮減や財政負担の平準化等に向けた方針を整理し、横断歩道橋の維持管理の最適化に向けた取組を進めるため、定期点検結果（5年毎）や修繕結果を踏まえて策定しています。

本市は今後、本計画に基づいて、横断歩道橋の維持管理・更新を推進することで、持続可能な自治体経営の実現を目指します。

(3) 方針

長寿命化修繕計画は、横断歩道橋定期点検結果を基礎データとして立案しています。

本計画の対象横断歩道橋は、4施設（詳細は2.長寿命化計画の対象施設（対象施設の概況）参照）です。

計画期間は10年間（2026年度から2035年度まで）としましたが、社会情勢の変化などにより計画内容の見直しが隨時必要となることが想定されることから、計画期間に捉われず、柔軟に計画の見直しを行って参ります。

2. 長寿命化計画の対象施設（対象施設の概況）

（1）計画対象の施設数

本市が管理する横断歩道橋4橋（表2.1参照）を長寿命化修繕計画の対象としました。

表2.1 対象施設一覧表

番号	横断歩道橋名	施設延長 (m)	供用開始 (年)
1	しあわせ橋	13.5	1969
2	栗島歩道橋	18.5	1971
3	あおぞら歩道橋	13.9	2003
4	なかよし歩道橋	28.6	1999

施設延長：階段部は含まない。

表2.2 点検実施年度と施設数

横断歩道橋	4 橋
点検実施：令和6年	4 橋

（2）横断歩道橋の年齢

横断歩道橋4橋の内、現時点（2025年）において架設後50年以上経過した横断歩道橋と架設後20年程度の横断歩道橋と二分しています。

表2.3 計画対象施設数

横断歩道橋の年齢	施設数
50年以上	2 橋
40年～49年	0 橋
30年～39年	0 橋
20年～29年	2 橋
20年未満	0 橋
計	4 橋

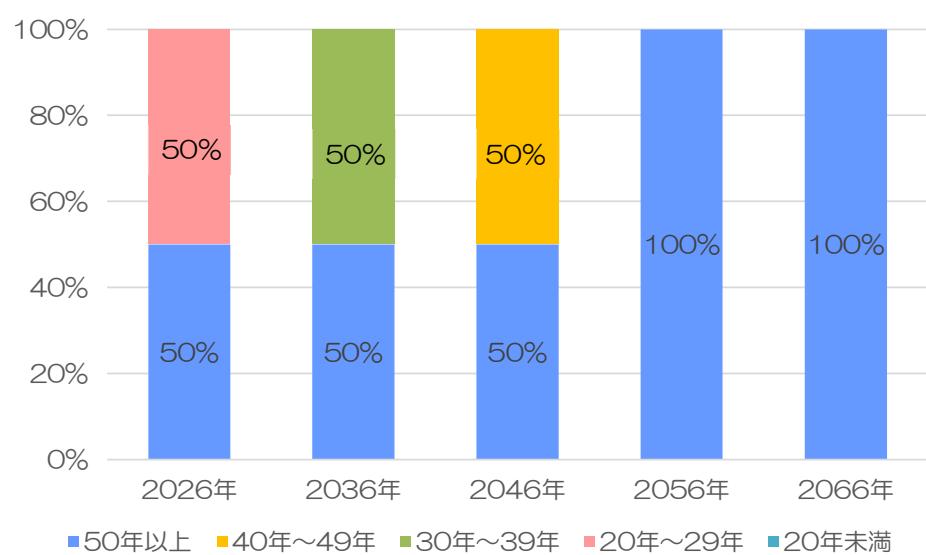


図2.1 架設後50年以上となる横断歩道橋の割合

3. 健全性の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

(1) 健全性の把握に関する基本的な方針

横断歩道橋の点検については、道路法施行規則（平成26年3月31日交付、7月1日施行）により5年に1回の頻度で定期点検を実施することが義務化されました。

そのため、本計画の対象施設（4橋）については、「歩道橋定期点検要領（令和6年9月国土交通省 道路局国道・技術課）」や「横断歩道橋点検要領（令和7年3月改定 愛知県建設局道路維持課）」に基づき、全ての横断歩道橋の定期点検を実施し、変状を早期に把握するよう努めます。

定期点検要領では、近接目視での点検が原則義務付けられ、構造の安全性の確保や第三者被害の防止を目的とした統一的な基準等に基づき、4段階で健全性の診断の区分（表3.1参照）を判定しています。

表3.1 健全性の診断の区分

区分		定義
I	健全	横断歩道橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	横断歩道橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講すべき状態。
IV	緊急措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講すべき状態。

[出典：歩道橋定期点検要領（令和6年9月 国土交通省 道路局国道・技術課）]

横断歩道橋の維持管理は、「①計画」→「②修繕」→「③点検」→「④記録・診断」のメンテナンスサイクルに基づき実施します。

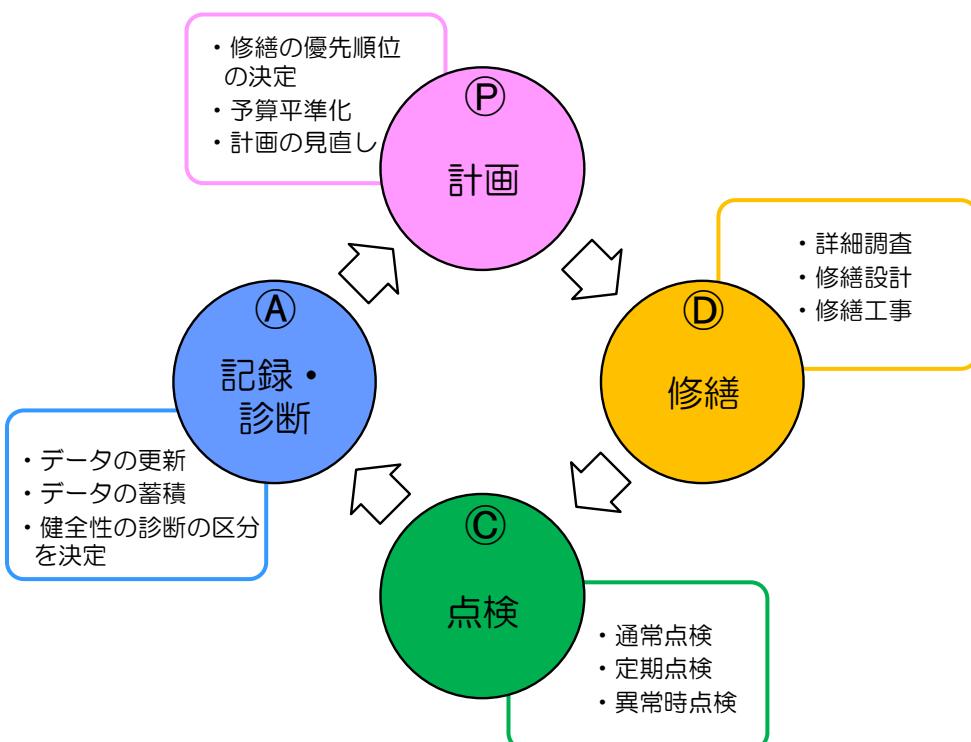


図3.1 長寿命化修繕計画のメンテナンスサイクルのイメージ

(2) 日常的な維持管理に関する基本事項

横断歩道橋の保全を図るため、定期的に道路パトロールを実施します。

道路パトロールは、パトロール車で走行しながら目視点検を行い、異常が疑われる箇所について徒歩による目視点検を行います。

道路パトロールで異常を発見した場合は、道路上の落下物等、現場において対応が可能であるものについてはその場で対応します。

道路パトロールの実施フローは下図のとおりです。

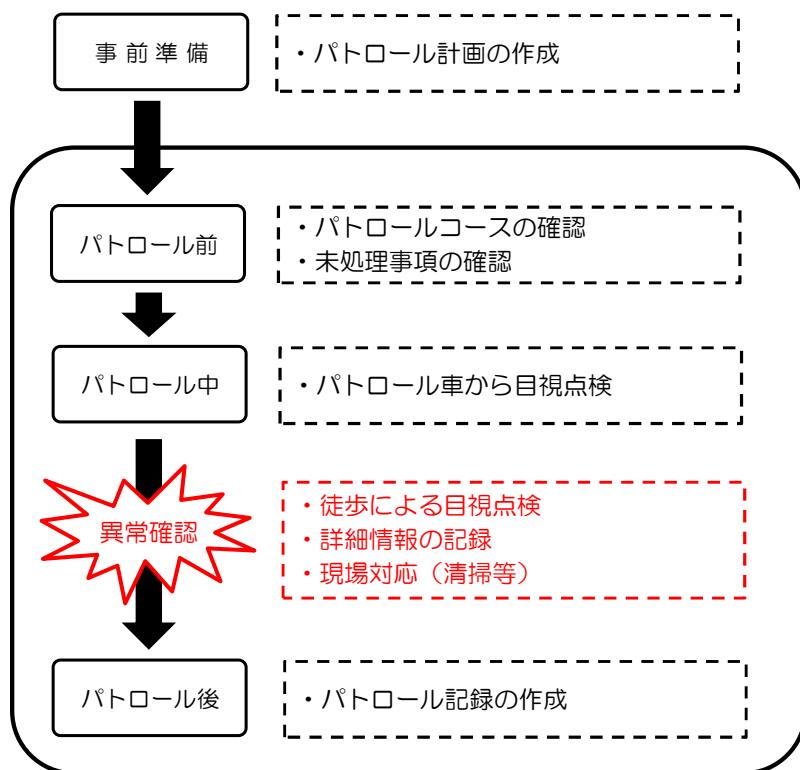


図 3.2 道路パトロール実施フロー

(3) 近接目視による定期点検結果

本市が管理する横断歩道橋は、4施設全て健全性の診断の区分は「Ⅱ」であり、現時点では横断歩道橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態のため、予防保全の観点から本計画で措置の実施を検討しました。

表 3.2 健全性の診断の区分の結果

区分		施設数	
I	健全	〇 橋	0%
II	予防保全段階	4 橋	100%
III	早期措置段階	〇 橋	0%
IV	緊急措置段階	〇 橋	0%
計		4 橋	—



写真 3.1 点検状況

4. 対象施設の長寿命化及び修繕・架替えに関する基本方針及び目標

(1) 老朽化対策における基本方針

日常の道路パトロールの中で清掃等を実施し、定期点検のなかで損傷の度合い及び対策の必要性を定めるとともに、従来の事後的な修繕から予防保全的な修繕の実施に移行し、施設の長寿命化を目指します。

【優先度判定の指標】

対策の優先度は、施設の状態（健全度）の他に架設場所等の優先度を定め、総合的に勘案して判断します。

横断歩道橋の優先度は、各施設が本来持つ社会的影響度や構造物管理の視点から、横断歩道橋において加味する指標として「道路構造物長寿命化計画 愛知県建設部道路維持課 令和7年3月（改定）」を参考に、地域特性等の指標を加味したうえで評価しています（表 4.1 参照）。

なお、健全性の診断の区分でIVが確認された場合に対しては、本計画とは別に緊急措置を行う計画としました。

表 4.1 横断歩道橋の社会的影響度と構造物管理の視点による指標

重要度	評価指標		説明	判定基準 高 ← 優先度 → 低
上位 	健全性の診断の区分		定期点検結果によって優先度を高くする	IV > III > II > I
	横断歩道橋諸元	施設延長	横断歩道橋が崩壊等によって道路が通行止め等となった場合、復旧時間を考慮し優先度を高くする	20m以上 > 20m未満 ※階段部は施設延長に含まない
		供用期間	供用期間が長い横断歩道橋は老朽化の進行が早いと想定されるため、優先度を高くする	高 50年以上 20年～50年未満 20年未満 低
	路線の重要度	路線等級(交差物)	横断歩道橋が跨いでいる道路の種類や区分等によって優先度を高くする	高 県道 市道1級 市道2級 その他道路 低
		迂回路の有無	横断歩道橋が崩壊や通行止め等となった場合、地域住民の日常生活に支障をきたす恐れがあるため優先度を高くする	迂回路有り > 迂回路無し
	地域要性の	災害対応(避難施設)		高 避難施設から250m圏内 低 避難施設から250m圏外
下位 				

(2) 横断歩道橋の集約化・撤去に関する基本方針及び目標

本市で管理する横断歩道橋（4橋）は、通学路における児童の交通の安全確保を目的としており、重要な経路として利用されていることから現状では集約化・撤去は困難です。そのため、現在架橋されている横断歩道橋の復旧が見込めない状況となった場合に、利用状況や社会環境の変化、地元の意見を踏まえながら架替えや撤去を検討します。

(3) 新技術の活用方針及び目標（コスト縮減効果）

現場状況等を考慮したうえで、点検及び修繕においてコスト縮減や維持管理の効率化を図るため、国土交通省の「NETIS（新技術情報提供システム）」や「新技術利用のガイドライン（案）」を活用する等、維持管理に関する最新のメンテナンス技術の積極的な活用を図ります。

従来の事後保全修繕から予防保全修繕へ移行し、コストが掛かる架替えを少なくすることで横断歩道橋の長寿命化を目指すとともに、長寿命化計画を適切に実施することで、修繕・架替えのライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図ります。

■短期目標

期 間：令和8年度～令和17年度（10年間）

目標値：2 橋程度

縮減額：200 万円程度

5. 施設毎の対策内容と実施時期及び対策費用（個別施設計画）

対策内容と実施時期については、「対策の優先度」及び「各施設の状態」に基づき対策の実施を計画しています。また、維持管理費の縮減及び予算の平準化を行い、状況に応じ対策時期の組替えを行っています。

各横断歩道橋の定期点検時期、年次修繕計画（対策内容及び実施時期）を次頁に示します。

■年度別対策費用

1年目		2年目		3年目		4年目		5年目	
2026年度【令和8年度】		2027年度【令和9年度】		2028年度【令和10年度】		2029年度【令和11年度】		2030年度【令和12年度】	
補修設計費	○ 千円	補修設計費	3,000 千円	補修設計費	3,000 千円	補修設計費	3,000 千円	補修設計費	3,000 千円
補修工事費	○ 千円	補修工事費	○ 千円	補修工事費	39,000 千円	補修工事費	18,500 千円	補修工事費	12,700 千円
定期点検費	○ 千円	定期点検費	○ 千円	定期点検費	○ 千円	定期点検費	3,600 千円	定期点検費	○ 千円
合 計	○ 千円	合 計	3,000 千円	合 計	42,000 千円	合 計	25,100 千円	合 計	15,700 千円

6年目		7年目		8年目		9年目		10年目	
2031年度【令和13年度】		2032年度【令和14年度】		2033年度【令和15年度】		2034年度【令和16年度】		2035年度【令和17年度】	
補修設計費	○ 千円	補修設計費	○ 千円	補修設計費	○ 千円	補修設計費	○ 千円	補修設計費	○ 千円
補修工事費	30,700 千円	補修工事費	○ 千円	補修工事費	○ 千円	補修工事費	○ 千円	補修工事費	○ 千円
定期点検費	○ 千円	定期点検費	○ 千円	定期点検費	○ 千円	定期点検費	3,600 千円	定期点検費	○ 千円
合 計	30,700 千円	合 計	○ 千円	合 計	○ 千円	合 計	3,600 千円	合 計	○ 千円

■年次修繕計画

No	施設名(フリガナ)	路線名	所在地	架設年度 (西暦)	施設延長 (m)	全幅員 (m)	橋の種類	点検結果		修繕計画(年度)												点検計画(年度)												主な補修内容	概算工事費 (千円)	措置状況
								点検実施 年度	健全性 区分	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17							
1	しあわせ歩道橋 (シカツホドウキヨウ)	市道E-72号線	井瀬木五反地地内	1969	13.5	1.9	鋼橋	2024	II					○						○					○					・塗装塗替え工 ・舗装打ち換工 ・ひび割れ補修工 ・断面修復工 ・目地材設置工 ・裾隠し板取替え工	12,700					
2	栗島歩道橋 (クリシマホドウキヨウ)	市道A-55号線	宇福寺長田地内	1971	18.5	1.9	鋼橋	2024	II				○							○					○					・塗装塗替え工 ・舗装打ち換工 ・ひび割れ補修工 ・断面修復工 ・目地材設置工 ・排水装置取替え工	18,500					
3	あおぞら歩道橋 (アオゾラホドウキヨウ)	市道A-55号線	西之保東屋敷地内	2003	13.9	2.1	鋼橋	2024	II					○						○					○					・塗装塗替え工 ・目地材設置工 ・裾隠し板取替え工	30,700					
4	なかよし歩道橋 (ナカヨシホドウキヨウ)	県道春日井稻沢線	九之坪北浦地内	1999	28.6	2.0	鋼橋	2024	II			○								○					○					・塗装塗替え工 ・目地材設置工 ・裾隠し板取替え工 ・ひび割れ補修工 ・橋名板取付工	39,000					

※補修内容・概算工事費は経年劣化等の要因により変わることがあります。